

働き方改革 現場職員の声

在宅スタッフさんは会計事務所未経験で入所した人にとって頼れる存在

在宅スタッフさんを活用する仕組みができる前とくらべて、事務所は大きく様変わりしました。19時過ぎにはほとんどの職員が帰宅できる現在の事務所はとてもいい環境だと思います。残業せず楽しく仕事をしている後輩職員の姿を見られることも、とても嬉しいことです。



日小田さん

エヌエムシイ 税理士法人
所内職員／監査担当（現在は営業担当）

● プロフィール

入所6年。入所する前は、複合機の営業会社に勤務。会計事務所での経験はありませんでした。当税理士法人には営業担当として入所しましたが、まずは業務を理解するため3年間の実務を経験しました。その際に在宅スタッフさんへの依頼をすることで多くの学びがありました。

未経験で会計業界へ

当税理士法人に入所して、最初に担当を言い渡された顧問先（以下、お客様）は20件でした。そのうち、自計化していたお客様は15件、残り5件は記帳代行のお客様でした。その後、退職される方からの引継ぎを受けて、一番多いときで33件のお客様を担当しました。

私の場合、会計知識が全くない未経験で入所しました。後々は営業を担当してもらうが、まずは実務を経験してもらうと言われて採用されました。

実務を経験することは必要なことだ、と当然思いましたので、一生懸命に勉強して早く認めてもらおうと頑張りました。当時の先輩職員にはたくさん助けてもらいましたが、最初の半年間はとにかく苦しかったという言葉以外は思いつきません。

当時、帰りはいつも21時過ぎでした。それにも関わらず、事務所に退職者が出たため最高で33件を担当することになりました。帰りはさらに遅くなり、22時、23時となりました。期限のある仕事なので、月末近くになると終電間近や終電を超えてしまうときもありました。

夜中に会社を出ると家に着くのは深夜です。会社と家の往復という感じでした。当時30代前半でしたので何とか体力でカバーできていたと思います。

とにかく負担を減らしたい

入所して数カ月後、在宅で仕事をしてくれる人を使って新たな取り組みを始めるという話が出てきました。具体的には職員の仕事の一部を会計事務所の実験者に依頼し、在宅で仕事をしてもらう分業の仕組みでした。

当時の私にとっては、仕事を分担してくれる人（以下、在宅スタッフ）ができると聞いただけで、自分の仕事が楽になると思えました。ただただ嬉しく前向きにとらえられる話だったことが思い出されます。私より経験のある方が、私の仕事を分担してくれるのですから当然です。そして、実際に在宅スタッフさんへの仕事の依頼が始まったとき、できるだけ自分の仕事を依頼することに集中しました。

ちょっと大袈裟かもしれませんが、在宅スタッフさんの仕組みができるのが遅かったら、私は辛くて退職していたかもしれません。

経験不足をフォロー

在宅スタッフさんへの依頼を始めてからの私は、日に日に楽になっていきました。徐々に子供が起きている時間に帰れるようになり、気がつく和家人との時間を取り戻していきました。

私は会計の知識がない状態で入所したので、在宅スタッフさんに依頼するようになって、楽になっただけではありません。私自身が気付かないとか、よく分からなかった基本的な部分も在宅スタッフさんに見てもらえたことも大きなことでした。在宅スタッフさんからフィードバックされた内容を確認するだけでも私には成長する材料になっていたのです。

在宅スタッフさんには感謝の気持ちで一杯です。とにかく、私より経験のある人に仕事を依頼し、その結果を純粹に受け止めてを繰り返しました。かなり勉強をさせていただいたと思っています。

現在の事務所を見て感じる違い

在宅スタッフさんに仕事を出すようになってからは、私だけでなく事務所で働くみんなの残業時間が驚くほど減りました。19時くらいには事務所にほとんど人はいません。特に感じるのは、私の後に入所した後輩職員です。私と同じく未経験で入所した後輩もいるのですが、当時の私のように連日の残業はありません。そして、担当しているお客様は私よりも苦勞していたころと同じ30件くらいです。少し羨ましい気持ちはありますが、後輩が生き生きと仕事をしている姿を見ることは、やはり嬉しい限りです。苦しそうに仕事をしているより、楽しそうに仕事をしているほうがいいに決まっています。

未経験者を育成できる仕組み

3年間の実務経験が終了し、入所当初の約束通り、新規のお客様を獲得する営業担当になりました。この3年間で名刺交換した社長様は600人を超えました。実務経験を積んだことで、社長様の悩みも経理担当の方の悩みも分かって、この3年の経験は営業する上での強みになっています。最近、社長様のお話を聞いていて、よく耳にするのは人を募集しても応募がないというお話です。これは会計事務所にも言えることだと思います。

会計事務所経験者を募集しても、応募が少ないと所長に聞いています。応募が少ないこと自体は、やはり残念ですが、私達が魅力を作っていかなければならないと思っています。

当税理士法人では私が入所した後も、未経験者の採用を続けています。未経験者の採用は、育成に時間がかかるので大変な苦勞をするはずですが、後輩職員をみていると、その苦勞は少なく感じます。在宅スタッフさんと分業することで、職員の残業が減っているからだと思います。そして、みんなの顔が明るいことを感じています。時間的な負担が軽くなることで仕事へのモチベーションが上がっているのではないかと思います。

在宅スタッフさんとの分業は、主に未経験者の育成に役立つ仕組みだと私は思います。ベテランの職員さんは、どんな仕組みでも仕事ができると思います。でも、私のように経験がない人には、会計事務所の仕事は覚えるまでが大変です。大変なのは当然だと言われてしまうとそれまでですが、若い子が楽しく仕事を覚えていけるほうが良いのではないかと思います。

仕事を教えてくれた在宅スタッフさん

事務所の先輩職員には足を向けて寝られないほど、お世話になりました。その気持ちは忘れることはありません。でも、それと同じくらい在宅スタッフさんにもお世話になりました。未経験がゆえに、最初は恐らく要領の得ない仕事の依頼もあったことと思いますが、やさしく根気よく仕事を教えていただいたと思っています。そのときの感謝の気持ちが、今の営業担当としての私の大きな支えになっています。

『日小田さんからのメッセージ』

未経験者が会計事務所の業界で働き始めるときの苦しさを軽減してくれます。

在宅スタッフさんに私は仕事を教えていただき、そして育てていただきました。

